

平成27年度第3回スポーツ推進審議会 議事録

- 1 日 時：平成28年2月9日(火) 15:30～
- 2 会 場：柳川庁舎 2階 大会議室
- 3 出席者：増田 あけみ、川村 浩司、中田 吉光、奥 静子、柿崎 泰明、和嶋 裕人、
三浦 憲二、奈良 輝昭、村上 清男、本田 信雄（10名）
事務局：部長 成田 聖明、理事 横山 克広、課長 木村 久美子、
副参事 田村 亜希世、主幹 今村 剛志、主査 木村 和美、
主事 永田 亜希（8名）

4 概 要：

(1) 会長あいさつ

(2) 会議

① 新たな青森市スポーツ推進計画の素案について

「資料 1. (仮称) 青森市教育振興基本計画 (素案)」

「付属【参考】. 第2回会議以降の意見等」

(内容)・第2回会議での意見を反映したこと

- ・第2回会議後に行われた教育振興基本計画全体での意見照会での意見を反映したこと
- ・今回配布した内容は、パブリックコメントを実施した際の内容であること
- ・パブリックコメントでいただいた意見に対する回答は現在検討中であり、スポーツ推進計画相当部分については、計画内容の変更に係る意見はなかったこと
- ・計画内容の変更を前提とした意見聴取は行わないため、本日は、計画の実施にあたってのご意見等があればいただきたいこと

【質疑等】

なし

⇒これまで審議会から出された意見を踏まえ、策定された計画を実施していくこととした。

② 今後の課題について

「資料 2. 今後の課題について」（部活と指導者／施設のあり方）事務局から説明。

（内容）・「部活と指導者の問題について」は、

- 1、部活動等についてどのような運営形態を取るべきか
- 2、学校や地域で活動できる指導者を確保するためにはどのようにすればよいか

の二つに分けて意見をいただくこと

- ・「施設のあり方について」は、どのような価値を求め、どのようなあり方とすべきかについて、意見をいただくこととし、可能であれば検討の手順や、検討のためにどのような情報を得るべきか述べていただくこと

【意見等】

「部活と指導者の問題について」

村上委員

検討する上での前提となる事項、例えば国からの通達とか抜きにして、白紙で考えてよろしいか。

成田部長

特に前提となる事項は無い。

奈良委員

部活の現状についてだが、部活の指導者は現在教員がやっているところが多いと思うが、教員に対するさらに技術的な指導は行っているのか。

成田部長

教員を対象に特別に指導という形では行っていない。野球などの部活の指導をしている教員を集めて、審判の講習会など、様々な講習会は行われている。

奈良委員

外部指導者の活用は非常にいいことだが、予算もかかるし、指導者を育成しなければならぬ問題も出てくるので、大量の外部指導者を投入するというのは不可能に近い。

外部指導者がトレーニングメニューを作り、そのメニューの消化の仕方を個別に教え、あとは現場の指導者がそれをチェックして行けばいいようなシステムを考えればいいのではないか。

成田部長

小学校では、（担当する部活の）競技をやったことがない人が、お願いされて、顧問や監督を引き受けたりしている。

子供たちの中でも、競技力を向上させたい子供もいれば、楽しみでやりたい

子供もいるし、身体を動かせればいいという子供もいる。様々なレベルがあるが、素人の先生はなかなかついていけない。

本来、子供たちと向き合って勉強を教えなければならない先生たちが、部活で時間を取られ、非常に負担となっている。その状況をなんとかしたい。

奈良委員

現実として、今、小学生でも中学生でも体力測定をやっているので、体力測定の中身を充実して行けば、(レベルを見極める)能力のある指導者が、楽しむ子供はこのレベル、競技力向上を目指す子供はこのレベルと、体力測定の結果で体育能力のグループ分けをしながら、指導の仕方に幅を持たせてあげれば対応は可能でないか。現状では予算もないし、技術者も指導者もないのであれば、その中でやる方法を考えて行けばいいのではないか。

成田部長

今後検討していくなかで良しとした方法に予算がかかるとなれば、その措置を考えていく。外部から指導者を入れて、一時間あたりいくらと払ってお願いしているところは、国体レベルの選手がいたりすると、その競技が強くなっている。

奈良委員

弘前市の場合は、オリンピックソフトボールの齋藤さんが市の職員になっている。そういう方が市の職員として市内の学校をまわることによって、ソフトボールの技術力が向上するだろうと思う。また、弘前市では元プロ野球の選手の今関さんも採用している。

(実績のあるスポーツ選手を)市の職員として雇って、市内の学校を巡回しながら指導していくなど、方法はいくらでも取れると思う。

山形県の南陽市は箱根を走った選手を市の職員として雇用していて、一昨年、ニューイヤー駅伝に初めて自治体が実業団として選抜で出場した事例がある。スポーツレベルの高い人を市の職員として雇用することによってそのような結果が出て、南陽市の知名度もアップしたというのがニュースで流れていた。

成田部長

採用するのであれば、一旦引退した人でなければ採用が難しい。現役の選手だと、自分も競技するので遠征もあるが、公務員の場合、年休を取らなければならない。年休の日数は決まっているので、それを超えると欠勤になり、給料が下がっていく。青森市でも、現役のカーリング選手を市で採用したが、海外遠征が頻繁にあるので続けることが難しくなり、退職した。採用するとすれば、一回現役を引退した人が指導者として、指導力を発揮して、あるいは人脈をつかって、ということになる。市役所は採用する時に年齢制限があるが、今は社会人枠というのがあるので、そこを使っての採用になる。

学校の先生の多忙化が問題となっており、1日、13時間から14時間働い

ている。その解消のため、市内には（学校の外部に）いろいろなスポーツの技術を教える人が沢山いるのだから、そのような人たちを活用したほうがいいのではないかと考えている。すぐ派遣できるように、人材バンクのようなものはできないのかと考えている。

本多委員

PTA、地域住民に協力してもらうのは大変だろうと思う。私は町会長をやって5年になるが、町会長もやり手がない。おそらく、PTA や地域住民の方に指導者をお願いしようとしても、煩わしさなどのイメージもあって、引き受けていただけない場合が結構多いのではないかなと思う。

地域住民にお願いしていくためには、登録制を実施してみてもどうか。登録にあたっては、指導の際に怪我、事故などがあつた場合の責任をどうするのか、報酬はどうするのか、協力可能な種目、時間帯、これを決めておく。また、このように子供達を指導していくことが、青森市全体のスポーツの底上げになり、市のスポーツに寄与しているということで、表彰制度も取り入れてはどうか。

県の縄文の世界遺産登録のように、単独で取り組まずに、圏域で手を組んで面で行うべき。予算も違う。

青森市がスポーツに取り組む上では、最後は市長が決断してやるのが前提になる。そのためには、市長が判断しやすいように話を持っていく仕掛けを作ればよい。組織を教育委員会から市長事務部局に移すとか、あるいは、市単独ではなく、平内とか蓬田とか外ヶ浜とか、面でお互いが協力して実施する体制を作ることも考えられる。内部でじっくり検討して取り組んでいただきたい。

和嶋委員

町内会の話が出ていたが、私の所でも、やっている方は年配の方が多い。若い人が入って来たくないのか、好きではないのか、自分たちのことではあるけどもなかなか入って来ていない。

弘前では、地区で体育協会があり、市民総合体育大会を、県民体育大会の市版、ということでやっている。各地区とも総合優勝を目指して、頑張っている。スポーツに対する地域住民の関心が、高まる一つのきっかけではないか。愛知県の半田市は、市内を5つか6つの地区に分けて、全てに総合スポーツクラブを設置している。一つのクラブが何千人というクラブ、そこにいろんな（スポーツ）種目が入ってきて、そういう（活性化の）過程が続いている。スポーツクラブの活性化をもっともっと進める必要があるのではないかな。中体連などを見ていると、一つの学校では出場できないので、地区合同などの形で参加している。地域のクラブチームでの参加など、いろんなやり方を考えてもいいのではないかな。

指導者については、先生方は忙しいので、退職した方の活用が考えられる。

一生懸命その種目に取り組んで、まだまだ元気で自分のやってきた種目で恩返しをしたいという方が沢山いるのではないか。（青森市所在の総合型地域スポーツクラブである）ウイルススポーツクラブでも何種目かやっているが、外部指導者も入っている。高校の先生の退職者が、今70何歳で、全国大会で優勝させたいという大きい目標を持ってやっている。

（ウイルススポーツクラブでは）外部指導者については有料、時間いくらという額を決めてやっている。交通費は交通費で持っている。出すものは出していかないと長続きしないのではないかと思う。

先進的な県などの対策を調べて、真似するのではなく、参考にして、青森らしいものをやっていけばいいのではないか。

増田会長

かなり前に、中学校区を単位に全国に展開するという事で総合型地域スポーツクラブが始まったが、なかなか進んでいない。

中学校区で組織すると、小学校の子供達はやがてその中学校に通うため、子供達が通うにはとても良いシステムだと思っていたが、予算の関係とか施設の関係、指導者、様々な課題があって、進んでこなかったのではないかと思う。

それらが解決できると、青森型としてうまく行くのではないかと思うが、そこにはまた、学校には学校なりの問題があるかと思う。

川村委員

委員の皆様から意見が出ていたが、現場にいて、現場を見ていると、（実現は）大分難しい状況にある。地域住民の意識改革、これはできるものではない。

審判講習会など、半強制的にでもしないとなかなか集まらない状況で、レベルの低い、今始めたばかりの人は、なかなか参加できない。

中学校の部活動は、今、6時、6時半で終わるようにさせている。そうでなければ、先生が帰るのが、10時、11時、12時となり、部活（の指導）をやってから通常業務を行うと、帰るのは11時、12時、1時となる。

私が若い時はこういうこともあったが、今後そういうものは要求できないし、やめさせていかなければならない。

（資料に）「想定される対応」とありますが、ここにも（問題が）様々あります。外部指導者の活用についても、時々耳にするのが、外部指導者の売名的な行為での指導。外部指導者は生徒指導できない。

外部指導者については、スポーツを通じて何を育てたいのか（が重要）。（それが無ければ）上手にすればいい、勝利至上主義的な感じになってしまう。日本の武道的なものは、「道」、柔道を通して、柔を通して育てたいものがあるって続いてきたのだと思う。バスケット、バレーボールなど外から入ってきたものでも、それを通して育てたいものがあるって部活動をやっている。

外部指導者は本当に難しい。外部指導者は確保していかなければならないが、外部指導者がそのことで生活できるような、生活の糧を得られるようにならないと、制度として持たないだろうと思う。

PTA や地域住民といっても、やってくれる人は、一人いれば良いほうだと思う。町内の新年会に行っても、若い人は誰もいない。町内会のあり方、町内会がなぜあるのかについてすら、若い人は分からないわけで、これも期待するのは難しい。

計画を策定したけれども、計画だけで終わってしまいそうな気がしないわけでもない。クリアしていくためには、余程確かな情報を得ながらやっていかなければならないのかなという気がしている。現状としてはかなり厳しいのかなという気がする。

奥委員

若い人がなかなか入ってこないという声があったが、(入ってこない若い人たちは)自分たちはやれていけばいいと、楽しければ良い、面倒なことは避けたいそういうものの考え方。積極的に苦しい中に飛び込んで行こうという人は少ない。

そういうなかでどうやって指導者を発掘していこうかということになるが、和嶋委員の発言のとおり、外部の指導者はやる気のある人でなければならない。体育の先生でも、一生懸命やってくれた先生方は子供たちも大切にあって、精神的な指導も、体力的な指導もしてくださった。その面で大会で優勝したということもあるので、やる気のある方をいかに見つけていくか、ということだと思う。実技が優れているから指導者ではなく、精神的な面で子供達を引っ張って行ってくれる指導者が必要。

どうやって実技をやっていく人を見つけていくかとなると、やった経験のある人を連れてこなくてはならない。体育系の学校を出た人とか、大学の時にいろいろなスポーツに携わってきた人とか、そういう人たちをいかに指導者として見つけていくかということになるのではないのか。種目、資格など、地域のなかに、指導者になれる人がどれくらいいるのか把握していかなければ繋がっていかない。

増田会長

スポーツ推進員の立場で、指導者を育成していくというのはできるのか。

奥委員

スポーツ推進員は、老人や地域の方達の指導がほとんど。皆サークルを持っていて、そのサークルで指導している方が多い。

クラブから推薦されてきている推進員がいて、野球、卓球、ソフトボール、バトミントンなどいろいろ(指導できる種目が)あるが、その人たちが学校に行って指導するというのは、頼まれての形でないとできない。

地域の中で率先してやることもあるが、放課後の子供達への指導を申し出て

も、断られる地域が結構あるとのこと。それが必要になるようになってくればいいと思うが、その中には資格の問題がある。資格が無いと入っていけない。また、(指導にあたり)怪我をさせることもあるかと思うので、その保証がないと入っていけない。

中田委員

(資料にある) 4つの対応についても現状厳しいなと思っている。

突拍子もないことを言うかもしれないが、(解決方法として) 大学との連携がある。私はNHKと組んで、元気アップル体操をやっている。地域に根ざした活動ということで、学生を主体に地域に送り出して、お年寄り達と活動している。

指導のノウハウを競技団体などが学生に教えて派遣する、これを大学の単位にするなどすればいい。学生は子供達に(年齢が)近いので、求める事は競技力であったり、協調性であったりたくさんあるが、学生をうまく使うことによってうまくコミュニケーションが取れることがある。

大学には、様々な(スポーツ)種別をやっている学生がいると思うので、そこをうまく派遣できると、単純に競技力だけじゃなく、地域など、様々なものが明るくなるかと思う。保証の問題などあるが、やるならそのぐらいやっても面白いと思う。

木村課長

今年度、(一財)青森市文化スポーツ振興公社の補助事業として「学校スポーツ応援事業」を立ち上げ、青森大学さんに協力していただいて、野球の指導のため、野球部の学生を横内小学校へ派遣を行った。今年は時間的な関係で一校のみだが、来年度はもう少し広げて実施できればと思っている。

実施にあたっては、相手が求めるレベルだとか、把握していかなければならない。学校側に見れば、短期的ではなく、長期的に教えていただく方を求めているという現状もあるので、OBの方も含めて、まずは指導者の情報を把握していくというのが大事だと認識している。

保証という点については、傷害保険を事業実施側でかけるという方法で実施している。

柿崎委員

モデル事業を多くしていけば良いのではないか。

(力を入れて) 競技をやっているところには、コーチ、OBや仲間、そういう人達が入り替わり立ち代り入って指導をして、強化を図っている。自然と指導者ができてくる。

能力のある子が活動している種目など、市が何種目か、例えばカーリングなど、(モデル事業として) 強化を図ってあげることが必要なのではないかとと思う。

大学の連携も素晴らしいので、モデル事業を何種目か作り、市内に点在する

ような形で、それを1年、2年、3年と広げていけば、それらが他のモデルになって、立ち上げてくるところもあるのではないかという気がする。

三浦委員

部活動の指導者の問題については、青森市が市内にいくつかの拠点校を作り、ここはバレー、ここはバスケット、教育長なりが、指導者をそこに配置して、長い間そこで指導してもらうような取組みを実施する腹の座り方が必要となる。

あわせて外部指導者を考える場合、リスクに対する対処をよほど考えないと、怪我等があった場合に、お願いをしていた指導者がどういう資格を有し、どういう指導をしていたのか追求されることになりかねない。

少し極端なことをやりながら、でも将来的に青森市の中学校、小学校の子供たちの力を極力向上させるためにはこうすべきという、目当て、目標を立てる必要がある。

(学校単位以外の)スポーツ少年団は部活動とは異なるため、「部活(スポーツ少年団)」という書き方自体が疑問。ここにクラブチーム化っていうのは、学校の部活と切り離れたクラブチーム化のことなのか。学校とは切り離して、クラブチームとして活動するとなると部活ではない。

(生徒数が増えていった時代に、好きな者が集まって部を組織し、大会で競技することを学校体育でやり始めた経緯から)部活動というのは始まった時から問題があった。これは解決されることは無いのではないか。

サッカーがアンダー〇〇など、欧米型の形を作り上げている。サッカー、ラグビーはそうになっていくのではないか。その時に、部活との兼ね合いでどうなるのか。部活だけでやるとすれば、市の教育委員会で教育長を中心としながら、一つの極端な方針を立てながらやるべきと思う。

木村課長

スポーツ少年団は社会体育の部分だが、現在、56団体のうちの半数以上が小学校の部活と同じであり、他の団体がバスケットやサッカーのクラブ等の組織となっている。青森市にはそういった事情があるため、「部活(学校スポーツ少年団)」と記載した。

和嶋委員

青森県の単位団、団の性質は学校型が一番多い。57団のうち、39団、約7割が学校型。活動場所は、51団、約9割が学校施設となっている。団の形態、野球なら野球、サッカーならサッカーと単一種目が25団、一つの団、一つの学校で2種目以上やっている複合型が32団。

このような状況を見ていくと、総合型地域スポーツクラブは、単一種目ではないので、簡単にいけば、スポーツ少年団が総合型地域スポーツクラブに発展する可能性があるのではないか。保護者や地域の方々が、参加する形になっていけば、(総合型地域スポーツクラブ)市内にどんどん増えていく可能性

がある。大会も地域の参加、クラブの参加となれば、やりたい種目で大会に参加することが可能になる。総合型地域スポーツクラブを発展させていく必要があるのではないかと思う。

スポーツ少年団を社会体育と言っていたが、何時までは学校の部活、それを過ぎるとスポーツ少年団となる場合、事故が起きた時にどうするのか。その点も考える必要がある。

増田会長

簡単に解決できないと思うが、最終的には、青森の子供たちが自分のできるだけ近い場所で、自分のやりたいスポーツができるようにする。それから、競技力を伸ばしたい子供たちが伸ばせる場所を作る、という形で、体育協会や大学などのスポーツを指導できる団体と、指導者や、指導する組織を考えていかなければならないと思う。

これまでの意見をもとにしながら、モデル的にでも進めていただけたら、いい形がまた見えてくるのではないか。

すぐには実現できないとは思いますが、登録制度や、表彰制度など大事かと思うので、事務局で意見を整理し、検討へと進めていただきたい。

「施設のあり方について」

和嶋委員

ほとんどの学校が地域開放しているとおもいますが、その利用率、どのくらい利用されているのか。

成田部長

「率」をどう考えるかで変わると思うが、使われてはいる。ナイター施設のあるグラウンドは、野球などで使われている。

奥委員

（学校施設の地域開放は）大体（夜）7時から。その前（の時間）は入れない。

成田部長

（学校施設の地域開放は）先生もいなくてはならず、それも多忙化の原因の一つ。対応するのは、多くは教頭先生。教頭先生もすごく頑張っている。

奈良委員

和嶋委員から、学校の利用率の話があったが、この一覧にある公共施設の利用率はわからないのか。あり方を検討する上では、こういう施設はどう利用されているのか、利用率（のデータ）が無いと、あり方の議論がなかなか進んでいかないのではないかと思う。どれくらい利用されて、どういう人達が利用しているか、年齢層など。そういったものをある程度把握してもらわな

いと、議論にはなかなか入っていけない。

木村課長

課で所管の施設の稼働率しか把握していない。

奈良委員

例えば、施設のリプレイスを議論する時には、施設の利用率の低いものとか、予算の関係もあるので押さえていかなければならない。

和嶋委員

新総合運動公園では、メイン、サブアリーナ、テニスコート、球技場等々があるが、土日は埋まっている。夏休みなどの長期の休みの場合は、大会が多くなり、殆ど埋まっている。平日は空くことが結構多い。平日は大会がないので、グループの活用などが中心となってくる。今、冬場でテニスコートが使用できないので、体育館（アリーナ）の中でインドアのテニス、ソフトテニスをグループで練習というところが多い。夜 10 時までなので、フットサルなど、仕事終わってからきている場合もある。

増田会長

スポーツ施設のあり方を考えた時に、競技力向上なのか、一般の人達がより多く使えるような形にするのか、価値の見出し方は様々あるかと思いますが、その点はいかがでしょうか。

成田部長

それは、私の立場からすると（市民皆に使って頂く施設なので）全部。私たちが今、あり方検討を行うこととした背景には、市民体育館がかなり老朽化してきていることがある。今は市の財政状況上難しいが、いずれは立て直さないといけない。

また、市民体育館を立て直す時には、同じ場所に立て直していいのかの検討も必要となる。隣のプールについても同様の検討が必要となる。スポーツ広場の周辺など、一箇所に全てを集めてしまったほうがいいのか、様々考える要素がある。

青森市では東京オリンピック・パラリンピックの合宿の誘致をやっているが、誘致にあたって、第一条件は施設。どんなに「おもてなし」が良くても施設が無いと来ない。合宿を誘致できる施設は、市の施設はなく、県の施設しかないというのが現状。

青森市のスポーツ施設のあり方を理想論として持つため、検討を行うもの。

村上委員

今、市には、中、長期の施設の整備計画、施設計画というのはあるのか。

成田部長

スポーツ施設について整備計画はない。教育委員会としては、まず学校そのものに取り組んでいる。築後 40 年経った建物が 17 校もあり、それを立て替えなければいけない。スポーツ施設も老朽化しているので、やらなければい

けないというのがある。

村上委員

学校施設については計画があるのか。

成田部長

今、策定作業を進めている。次はスポーツ施設の整備計画を作らなければならない。

和嶋委員

前に施設の長寿命化の話が出ていたが、それでどのくらい延ばして使えるのか、というのもあるだろうし、国体とか、ツーリズムの話だとか、コミッションの話とか、誘致の際に施設は大事だと思う。

総合運動公園で駐車場は全部で1600台分ほどあるが、小学生の大会などがあるとそれがパンクする。作る時には駐車場のスペースを広く取ることが必要。青森は車社会なので、駐車場も含めて考えていかなければならない。

成田部長

県の安田の施設をどうするのかということも、検討の要素となる。

本多委員

県都なので、県ときちんとすり合わせをしないといけない。市は市で、県は県でやって、おかしなものとなると市民として困るので、その辺の調整は大いにやっていただきたい。

我が家は筒井でスポーツ広場の近くなのだが、スポーツ広場は利用開始時期が遅い。殆ど雪がなくて、すぐに使わせればいいのにとと思う。

また、野球場3面、サッカー、ラグビーとか（施設が）結構あるので、あそこの駐車場は結構広いが、特に土日は殆ど満車状態になる。そこに、部長さんが言ったように合浦から野球場とか持ってくると、我が家の付近は、帰りの車で渋滞が酷くなりすぎるのではないかと思う。施設も大事だが、駐車場や車のことも、先ず対応を考えておいていただきたい。

施設については、学校の話もあったが、耐震性能を十分にし、人命に被害が及ばないようにすることが第一だと思う。

施設を作る際には、市民レベルの施設なのか、将来、国体なり様々なものが来た時に、競技団体が使っても大丈夫なような施設にするのか、仕分けをきちんとしておく必要があるのではないか。青森県もプロ野球の1軍を呼びたいということで、耐震関係などやった県営球場が、最後は予算の問題と将来的な宮田への移転との兼ね合いで、選手が使うシャワー室など付属施設等はやむやみになった経緯がある。競技者団体に対して使わせるのか、一般市民に使わせるのか、きちんと整理しながらやるべきだと思う。

三浦委員

陸上で、小学校の春の大会、県大会の予選の大会を青森市の小学生を対象に開催する際に、県の陸上競技場が改修工事に入っていて会場がなく、わざわざ

ざ青森市から弘前市の競技場まで行ってやる状況に陥ってしまったことがあった。

青森市のスポーツ施設を見てきたが、合浦公園に（陸上競技場が）あったのは昔の話で、400Mトラックを潰して競輪場にしてしまった。青森市は競輪などの施設はどんどん建つが、スポーツ施設がなかなか建たないでできた。ただ、青森市に県の総合運動公園が存在するっていうのは大きなメリットだと思う。そういう意味で八戸、弘前とはちょっと違うような気がする。八戸も弘前も非常に大きな施設を整備し、全国大会を含めて国際大会まで呼べるような形でやっているが、青森市は、全国大会規模の施設については、県に任せておいていいような気がする。青森市としては、地方大会、少なくとも県域の大会は青森市独自の施設でできるような形で整備を進めていただければと思う。

浪岡と合併したことで、浪岡の総合運動公園もあるが、そここの兼ね合いをどうするのか。旧青森市、旧浪岡町という意識がまだ行政的に強いのかなとおもふ。これらを統合し、県レベルの大会をいつでも青森市の施設で開催できることを目指しながら、青森県が整備しようとして、余るであろう施設をいち早く名乗りを上げて有効活用して欲しい。施設からすると青森市は持っていると思う。その施設を有効に使うべきだと思うし、整理統合しながら、やって欲しい。

成田部長

スポーツ施設を整備するのに誰も反対していない。問題は財政事情。

三浦委員

国から、いかに予算を持ってくるかだと思う。

横山理事

県と競合する施設を、同じようにお金をかけて作るわけにはいかないので、棲み分けしながら、青森市として地域レベルで何が必要か、その優先順位を議論していただければ、（話の）持って行き方としてよろしいかと思う。弘前で、八戸でとって、競争して競合する施設を整備する必要はない。県の施設であっても、（青森市に所在すれば）青森市にも経済効果はある。競技人口も多くて施設もあるが、点であるものを面にしていくとか、そういう考え方をしていく。県の施設で足りないもの、例えばプールなど。国体では必要だが、飛びこみのプールは隣の県の施設を借りなくてはいけない。市民体育館は「青森ワッツ」から使いたいと申し入れがあったが、床に敷くシートが入らなくて実現できていない。地域に根ざしてきているプロの人の要望とか、そういうのを踏まえたトータルの話をしていかなければならない。施設のあり方については、課題があまりにもありすぎて、今日この時間で決めてもらおうというのは無理なので、本日出された意見のエキスを入れながら、今後また新たな形で、次の審議会で検討していきたい。

成田部長

競技力向上のためにも、高いレベルの試合を青森市民に見せたいが、そのためには高規格の施設の整備が必要になる。

三浦委員

スポーツ広場の場所には、大型の施設を建てることは可能なのか。それとも何か縛りがあるのか。

成田部長

縛りはないが、新たに土地を買わなくてはならない。

横山理事

地盤が軟らかく、地盤沈下対策で工法に費用を要する。

本多委員

田んぼだが、地質の問題は大丈夫か。

成田部長

地質のことは考えなくてはならない。

余談だが「みちのくドリームスタジアム」スポーツ会館は、最初はスポーツ広場に建てる予定だった。しかし、財政上の問題で今の場所に建った経緯がある。

本多委員

(スポーツ広場に更に施設を増やすのであれば) 駐車場も考えなくてはならない。

成田部長

スポーツ施設のあり方検討は、長い目でやっていきたい。学校施設の整備計画がもうすぐ策定されるので、その後にと考えていた。

スポーツ施設をどうしていけばいいか。そして競技力向上を含めて、指導者をどうしていくのか。競技力のアップは指導者だが、その人が食っていけるのかということも考えなくてはならない。

奈良委員

部活をどう捉えるか、競技力の向上に軸足を置くのか、スポーツを楽しむことに軸足を置くのかによって、指導者のあり方も変わってくる。

部活というもののコンセプトを固めた上で、指導者をどうあるべきかの議論に入ったほうがいいのではないか。

こういった問題の議論を総合的に進めていく上で、スポーツコミッションという物の考え方が必要と考える。

10年以上前に関西でスポーツコミッションが立ち上がったが、基本的に会員は関西経済同友会がメンバーのため、財源がある。大学との連携、民間との連携をやる上では全て金のかかる話。

私はスポーツツーリズムという論文をまとめて、青森学術文化振興財団で優秀賞をいただいた。その論文の中でもスポーツコミッションの必要性に触れ

ている。スポーツコミッションを作り上げることによって、この審議会以外の別な人たちと、こういった議論ができる。青森の経済界の人をメンバーに据えて、市が旗を振りながらやっていけば、教育委員会は学校スポーツ、体育スポーツに重点を置いた仕事ができるわけで、それ以外の話については、スポーツコミッションに下駄を預けてあげればいいのではないかと思う。

増田会長

子供達がこういった形でスポーツをしていけるか、そのために私たちができることは何かを考えながら、今日いただいた議論をまとめて、スポーツのあり方、部活の指導ありかたについても意見を考えてみたいと思います。

⇒今回いただいた意見を整理し、来年度からの検討へと繋げていくこととした。

③その他について

特に報告事項は無く、事務連絡のみで終了。